

★郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日第3種郵便物認可
昭和46年11月1日印刷 通巻127号
昭和46年11月1日発行 毎月1回1日発行

MAGAZINE KOBEEKO NOVEMBER 11 1971 NO. 127



RK0159



NEO ELEGANCE
コレクション



婦人服飾
神戸 ベニヤ

★KOBE

本店 サンター街 TEL. 394-5528

さんちか店 レディス

ヤングポケット店

本部交通センタービル8F

★OSAKA

梅田阪急三番街店

近鉄上本町近鉄百貨店3F

★TOKYO

東急店日本橋東急百貨店3F

モデルマードリン・ストーンバーグ カメラ/山口 清
殖子/そごう

ミキモトが心をこめて
おとどけします。
フレッシュな
あなたのために……………
楽しい日々のために……………



——— 世界の宝石店 ———
MIKIMOTO
本店 東京 銀座4丁目 TEL.535-4611

神戸=三ノ宮-神戸国際会館 TEL. 221-0062
大阪=堂島-新大ビル・大阪国際空港 TEL. 341-0247
京都=河原町蛸薬師上ル(ファッションビルBAL 4階) TEL. 241-2970
名古屋=栄-中日ビル(2階) TEL. 261-1808 ©-1971 御木本真珠店

アンデルセンの家に古びた靴とカバンとこもり傘が置いてあった。
可愛い人形のような少女がタバコを吸っていた。
男の人も女の人のように親切でやさしかったような印象だけが残っている。
それはそれは丘ばかりの不思議な平和の国であつたようだ。



神戸っ子'71 真理アンヌ

（11PMホステス）

カメラ・藤原保之

キリッとした野性的な瞳から、エキゾチックなお色気の溢れる真理アンヌ（23）さんは、この九月から読売テレビ「11PM」（火・木曜日）の四代目ホステスを勤めるラッキーな神戸っ子。

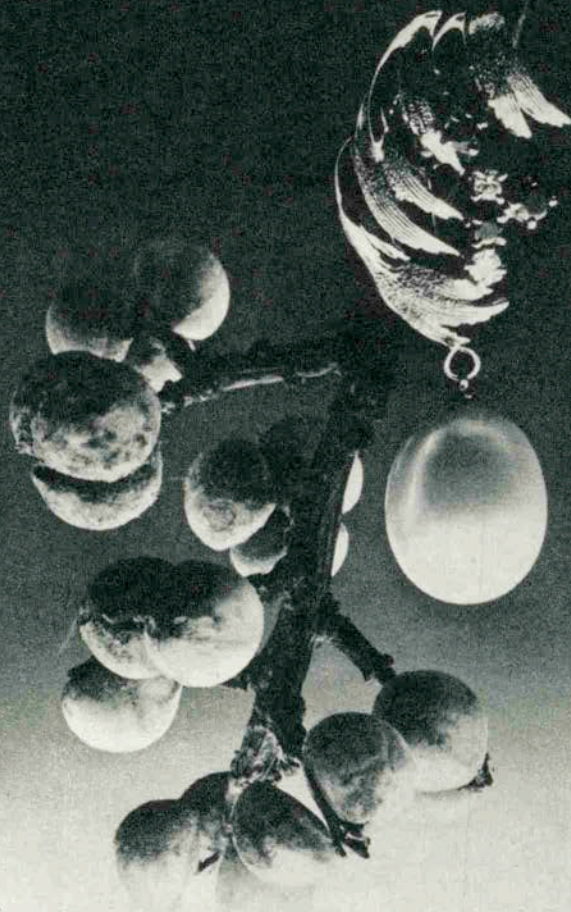
インド人の父と日本人の母の間に生まれ、五才まで神戸北野町で育った。海が大好きなので、東京に移ってから時々神戸の実家に帰って海を見ろという。

芸能界には七年前、東宝映画「自動車泥棒」でデビュー。それ以来映画、テレビ、芝居に活躍、この六月にはレコードも出した。ホステス役については「前からやりたかったことなのでただ一生懸命やるだけです」と新しい仕事に夢を託している。

（写真 大阪の読売テレビのスタジオにて）



真珠は女性を清らかにみせます
いちばん貴重な清らかさ



田崎真珠

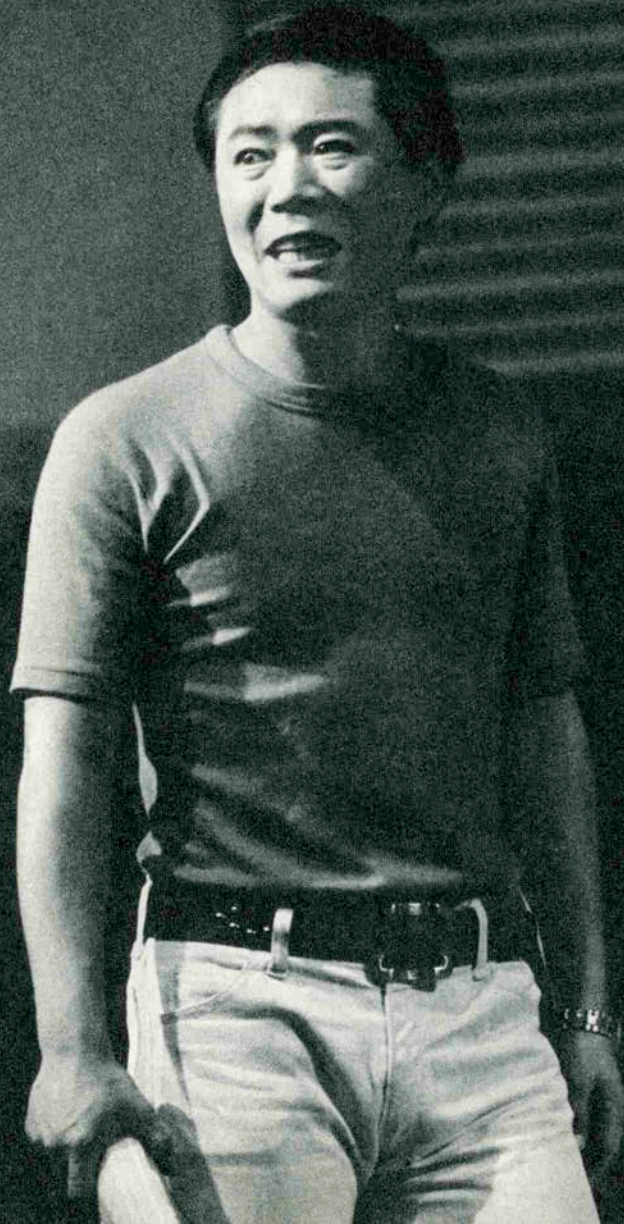
●本社 ●神戸市葺合区旗塚通 6-9 ●パールファーム神戸 ●神戸市灘区六甲台町24
Tel (231) 3321 Tel (871) 9289
●さんブラザ店 ●神戸さんブラザビル 3F ●ブラザ店 ●大阪 ホテルブラザ内
Tel (391) 4085 Tel (458) 2449
婚約リングのカタログご希望の方は上記へご連絡下さい

●神戸っ子'71 浜田義則

（劇団神戸）

カメラ・藤原保之

昨年二月、団員わずか三名という「ミニ劇団」が神戸に誕生、その創立者の一人がこの浜田義則（30）さん。
葺合高校時代に演劇にとりつかれた彼は関西学院大学では「エチュード」に属して活躍、卒業後も会社に勤める傍ら演劇活動に青春を打ち込んできたが、以前属していた劇団に飽き足らず「理論だけじゃなく、プロとしての実践を」という信念から、「劇団神戸」を設立した。
現在、二〇名を越す団員はこの九月芦屋のルナホールでの第三回公演「日本の青春」（遠藤周作原作、夏目俊二脚色、演出）で見事なチームワークで観客を感動させた。
十一月三日には三田市民ホールで木下順二作の「三年寝太郎」と「うり姫とあまんじゃく」を演ずる。
（写真 左・芦屋ルナホールで公演中の浜田さん 右・楽屋にて）



確信をもってタジマの眼が
選んだ宝石の名品



...宝飾店
Tajima
タジマ

元町2・TEL 33-5761 代表

タジマでは、宝石の鑑定を無料でご相談に
応じておりますので、お気軽にご利用ください。
白金台ダイヤ入りスターサファイヤ

ある集い 椰子会



秋の姫路書写山。円鏡寺境内の山道に、萩の花が咲きこぼれる。俳句「椰子会」秋の吟行。

保守派の強い神戸にあつて、新進気鋭の若者が集まり「椰子会」を結成したのは昭和三十一年十一月。

現状にあきたらず、何かをしなければという気持が共通項になった。各々他の同人誌に属しながらの自称「野武士の集い」はタレントぞろい。どうやら年に季節が二回位しかないらしい「季刊誌「椰子」」の発刊。そしてかつての文学青年も三〇代後半を迎え、今迄の仕事を世間に問う意味で、椰子会叢書を計画、子郷「遠方」、良明「米と雀」に続き、素粒子の著作も近い。

俳壇の若手として、神戸の一画から俳壇の刷新を図ろうという思いが、七人の待々の胸の内に燃えているようだ。

(二十一ページ参照)

☆写真右より山本良明(米穀店経営) 椰子会に入り無常を感じて出家した。源啓一郎、主宰、友岡子郷(松陰高校教師、顧問的存在で、「雲母」同人の和田漢、栗栖仙竜、かつて美男子であった中野達也(カネカ)、五年間ブラジル潜在を経た中杉隆也と紹介して下さった皆さん。この他浜崎素粒子(甲南大学講師) 護下周延(測量士)の二氏がいる。



KANeko

Pearls Salon

衣裳ルシアン野村

かねこ

ニ☆ニエス

パリは正統派に拍手

インディアンや
ジブシイ、ポップなど
気まぐれな変化には
とてもついて行けないよ
とパリでは、正統派の
オートクチュール
71秋、冬モードに賛同
の拍手が湧いているとか。

おしゃれをリードする……

 金子眞珠

神戸店：神戸市東灘区住吉町堂ノ本1824

TEL (811) 2881-3

銀座店：東京都中央区銀座7-8-5

金城ビル5F TEL (572) 2226-7

ホテルバシフィック店

東京都港区高輪3 TEL (445) 5303

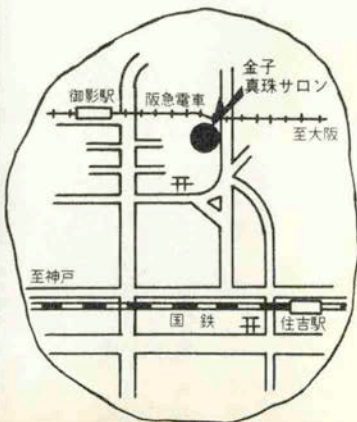
福岡店：福岡市天神4丁目80

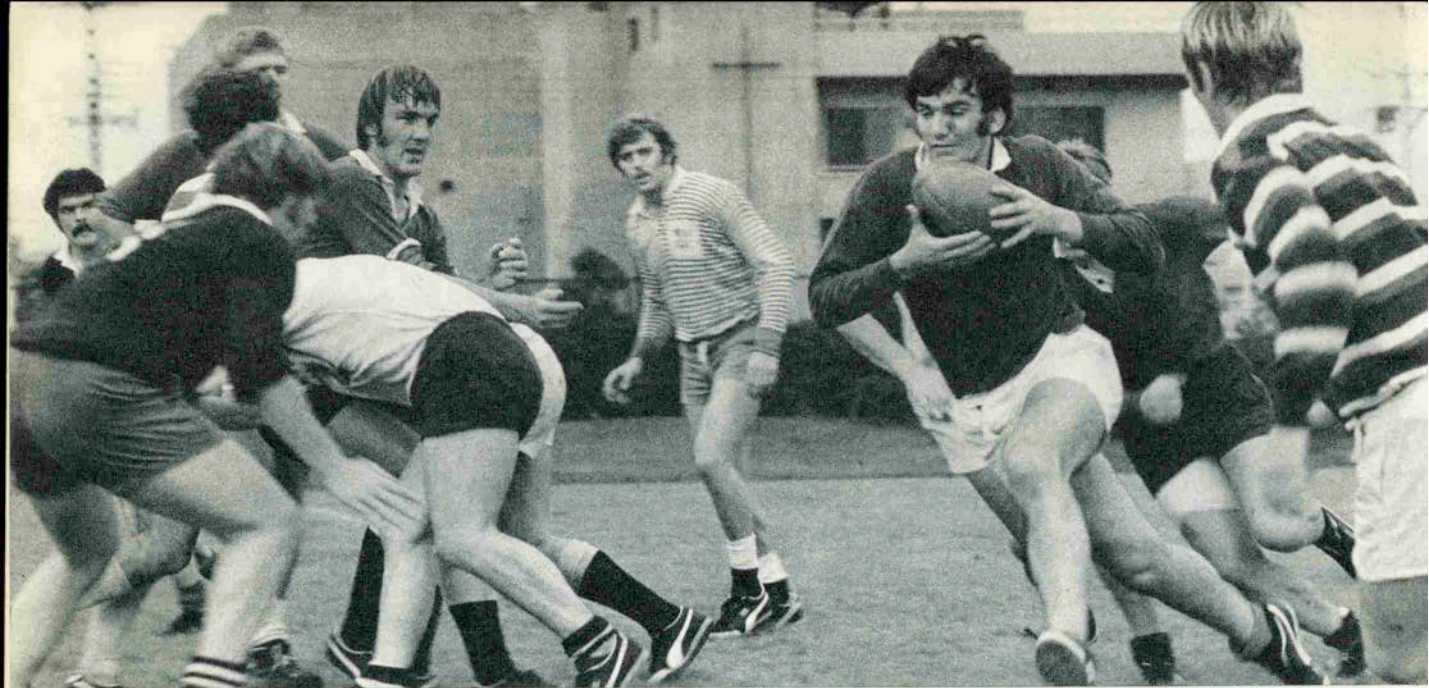
福岡ジョッパーズプラザセンタービル(3F)

TEL (72) 5411 内線 589

長崎店：長崎市大黒町14-5 長崎ビル2F

TEL (22) 1537





ものすごい超大型ノ

●コウベスナップ

練習前の長いミーティング

オールイングランド・ラグビーチーム、神戸を訪問

全イングランドラグビーチームが9日22日神戸磯上グラウンドで対全日本との試合のための練習を行った。練習とはいえ超大型の威力を発揮し見物人をアッと驚かせた。



プレザースタイルでレセプションに出席(右)



真陰なまなざしで選手の質問を聞く
バージェスコーチ(上)



新着24パターンで
パリ・ジエンヌそのままに

●スカート丈はひざ下まで
すてきな一枚仕立て

—— シックなAラインが復活しつつあります
シルエットの美しさは抜群です
ワンピース95,000円からお仕立て代共

“ジバンシイは優雅な秋の“化身”です



大丸
神戸店

電話(078)331-8121(大代)



ファッションとくらしのハイタウン——フレッシュ大丸

襟飾一筋 式拾五年

ねくたい ひとすじ

にじゅうごねん。

ねくたいの せんもんてん

として みなさまに

おひきたて いただき

きょうまで まいりました。

こんごとも なにとぞ

ごあいこ ください。

ネクタイの

元町バザー

神戸・元町1丁目

TEL(331) 1401

(331) 7031

東京  東急百貨店

渋谷本店／日本橋店



★ドイツ製コイン 栓抜きを
プレゼント!

25周年を記念して50名様に抽選で上の
写真のコインせんぬきをプレゼント
致します。

11月20日までに下記へご応募下さい。

神戸市生田区元町1丁目56

元町バザープレゼント係

Royal Fenclan

みどりに光るラフな装い

嶋川信一さん(プロゴルファー)

みどりの美しいゴルフ場でブルーの
シャツを粋に着こなすのは、プロゴ
ルファーの嶋川さん。

毎日をゴルファーの指導にあたる
ビジネスは、やさしい笑顔のなかにも
きびしさを感じる。

谷崎文学「細雪」のこいさんの相手
役板倉のモデルでもある。

世界のオシャレをおとどける

ウネ

■神戸元町1丁目

TEL 331-3112

■東急百貨店渋谷店

■東急百貨店日本橋店

カメラ/菊池 満 菊水カントリーにて



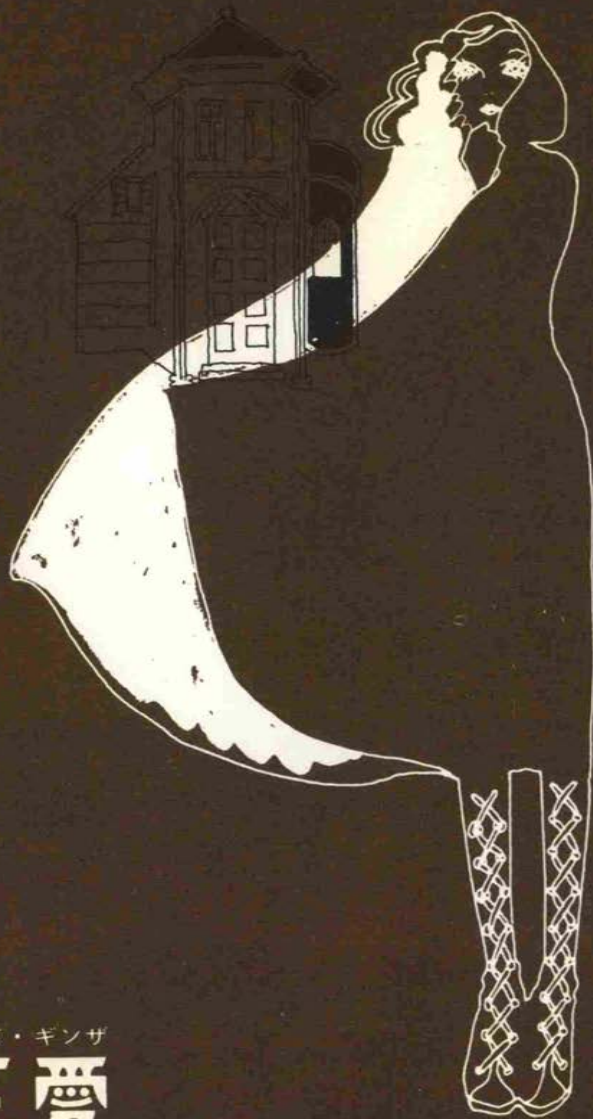


表紙／小磯良平(部分)

- 4 SECOND COVER／中西 勝
 5 神戸っ子71／①真理アンヌ／②浜田義則
 9 ある集い／俳句「椰子会」
 11 コウベスナップ／オールイングランド・ラグビーチーム
 17 わたしの意見／高村信夫 日本経済新聞神戸支局長
 19 随想三題／
 伊川 寛 「元町画廊の青山熊治展」
 川崎美代子 「りんどう咲く秋のたのしみ鍋」
 芝 康豆 「スペインの緑」
 22 ある集いその足あと／椰子会／友岡子郷
 24 連載随想(2)「神戸の味覚」楠本喜吉・え／南和好
 26 ずいそう／京都・淡路・神戸／奈良本辰也／え・角 卓
 28 神戸の100人うらおもて／重森 守
 33 神戸っ子対談／秋田博正・小林博司
 37 経済ポケットジャーナル
 38 技術ジャーナル／諸岡博昭
 42 神戸のアーバンデザイン／水谷順介＋チームU・R
 43 神戸のモダンリビング／武田則明
 44 神戸遊戯訪談「剣道」青木重雄
 46 世界の福祉ルポ(8) ロンドンのバーナード・ホーム／橋本 明
 49 創作邦楽作曲家座談会／清元梅吉／今藤政太郎／芳村伊十七
 52 J・ロウ夫妻のカメラとペンで⑨
 57 神戸の集いから
 58 動物園飼育日記／⑨亀井一成
 62 ファッションエッセイ⑪／秋の夜長のファッション／石原 静
 68 異人館特集①／北野町異人館グラビア集
 74 エムコラージュ／詩・丸本明子／コラージュ・石阪春生
 104 異人館特集②座談会「神戸異人館抒情」・林田重五郎・小松益喜・阪本勝比古・小山牧子
 111 異人館特集③JINKAN・MAP
 118 シリーズコミック／マリオネット⑨岡田 淳
 120 CINEMA IN THE WORLD／淀川長治
 125 ニューギニア紀行／森本 勉
 128 ぴっといん
 131 神戸百店会だより
 132 ポケットジャーナル
 136 連載小説／ギリシタンの墓・小山牧子・え／石阪春生
 144 連載小説／曲線ハイウェイ・武田繁太郎・え／横塚 繁
 154 神戸教養／カメラ・諸方しげを
 156 海・船・港／英国軍艦「イントレピット」号をたづねて
 カット／岡田 淳・カメラ／米田定蔵・藤原保之

異人館… 坂道……

こんなコートがいい。



東京・ギンザ

San-ai 三愛

三宮店

センター街さんプラザビル2・3F

AM11:00~PM8:00 ☎391-6861

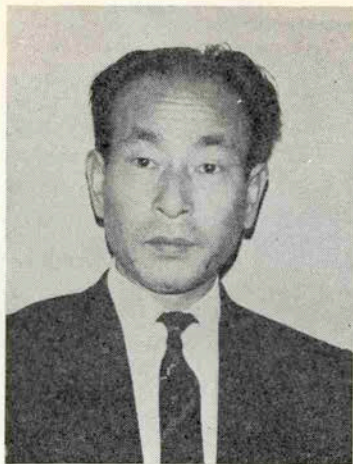
☆わたしの意見

情報時代に

ショックなし？

高村 信夫

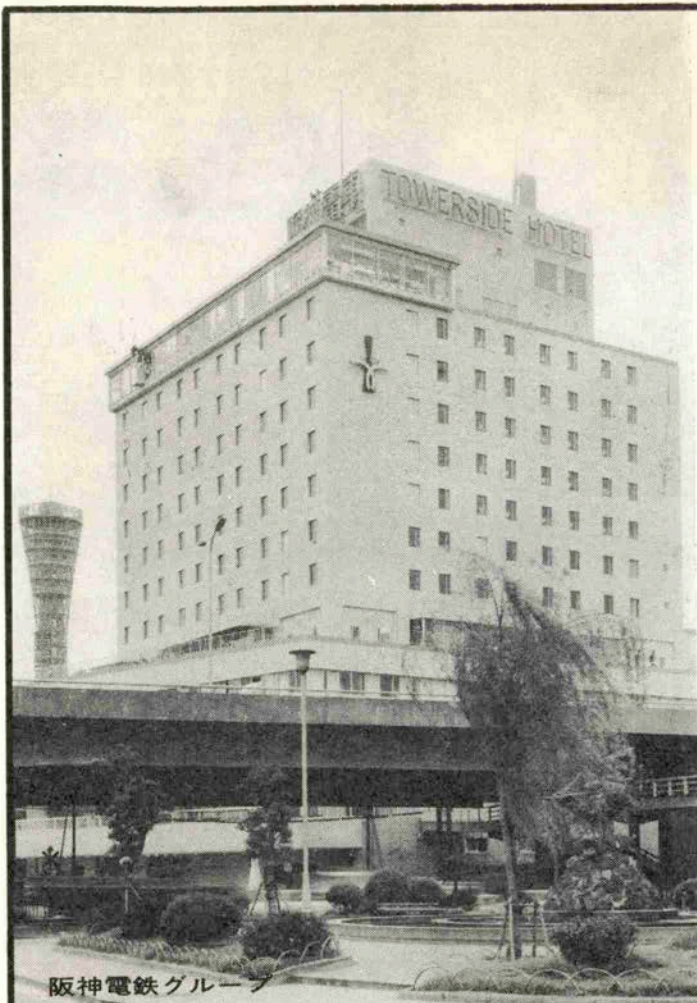
(日本経済新聞神戸支局長)



夏以来、「ニクソン・ショック」、「ドル・ショック」が、政治、経済、外交などを扱ういわゆる硬派面から、社会面まで新聞紙上をにぎわしているが、この「ショック」なる表現には「私は知らなかった」「だからびっくりした」といった弁解のにおいが強い。しかし今度のショックは、「私は知らなかった……」と言いのがれる？ 性質のものだろうか。「新聞は以前から今日の事態を予測していたし、警告もしていた」などという格好するつもりは、さらさらない。それどころか、一部の金融専門、あるいは国際政治経済専門の記者を除いて、われわれ新聞記者の大部分も、あわてて「ショック」取材に汗を流したものである。

もともと米国がドル防衛策を表明するときは、必ずベトナム戦争と結びつくのが通例で、いずれも最も強く影響を受けるのは日本。ニクソンは、いわばドル防衛とベトナム戦争終結を選挙公約として大統領となった人である。そして今度の訪中声明と新経済政策。ニクソンが「自由世界の平和と自由を守る責任を分担する時代がきた」とドル防衛策の基本的な方向を表明したのは、大統領公認候補指名演説での段階である。輸入課徴金についても、最近では七月末に、ミルズ下院歳入委員長が国境税の採用を提唱している。

米国ほど、日本が多くの外交官を送っている国はない。その米国の動きすら満足にキャッチ出来ず、対応策を国民に示さない政府に腹を立てるのは簡単だ。しかし今度のニクソン・ショックの前触れは、ちょっと並べただけでも、前述したようなことが新聞、テレビを通じて流されている。つまり大災害、大事故など突発事件は別として、この情報時代に前触れのない文字通りの「ショック」はほとんどないと言えるわけだ。問題はこうした前触れを絶えず分析し、それに基づいて企業に前向きな対応策をどのように注ぎ込むか。情報時代のイロハを、改めて振り返させたのが今度のニクソン・ショックだった。



阪神電鉄グループ

神戸タワーサイドホテル

レストラン

コスモ

●営業時間 A.M.10:00～P.M.8:00

ホテル直営のレストランが
貿易センタービル西側

神戸ポートレーン(ボーリング場)

2階にオープン致しました

***客室……160室**

シングル ￥1,800～￥2,800

ツイン ￥4,000～￥8,000

***お食事**

13F 和風レストラン「竹亭」

(営業時間 AM11.00～PM21.00)

5F レストラン「エメラルド」

(営業時間 AM 7.30～PM22.00)

***ご披露宴**

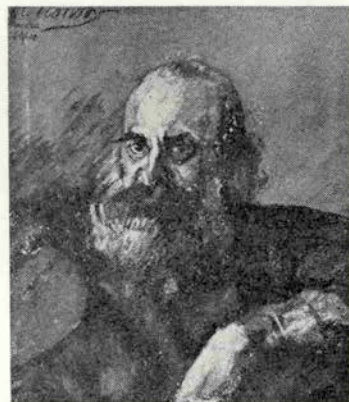
ご宴会

各種パーティーにご利用ください

神戸市生田区波止場町一番地(中突堤)

TEL 神戸 (078) 351-2151(大代表)

想題 随三



青山熊治作 〈ロシア人の男〉

元町画廊の 青山熊治展

伊川 寛

〈画家〉



現在、美術館として百二十二館、画廊として、東京都内だけで、二百数十を、大阪市内で五十五、わが神戸市は十四、五となかなか賑しい。神戸にも県立美術館もでき、そこで、大家新人、外国作家など、かねて噂の作品にも親しく触れることができるようになった。戦前は、日仏協会の海外画家展を、他に画集や色刷でひそかにあこがれを満足させていた。

「青山熊治展」も六十九点もの作品が、まったく嗅ぐようにま近

で鑑賞でき、二時間あまり釘付けにされた。特に、「裸婦」と「投網」は在京中、当時観た記憶の感激を新たにした。

「投網」は下絵とはいえ、タッチまでほとんど一緒に、脛から下が描いてないだけである。似たモチーフの、かつて小杉未醒（後放庵）の「水郷」、倉田白羊の「老漁夫」があったが、魅力と近代感とでこの「投網」が他を圧した。

昭和四年八月、平凡社発行の世界美術全集に、アイヌの作を掲載。解説に石井柏亭曰く「青山熊治は、東京美校を卒業して間もなく、明治四十三年春の白馬会に発表された。この画は彼の出世作といえる。たぶん最終の白馬会であったろう。氏の画は当時評判がよかったが、明治大正名作展で再び見た時、和田三造の「南風」に対してひけをとらぬ作であると思っ

た。火に照らされた半裸のアイヌを中心に、車坐の明暗の配置は、多少月並であるとはいえ、よくまとめられている……その後満州からヨーロッパへと、漂流生活は久しい年月にわたった。而して、人がほとんど彼の名を忘れかけた時、大正十五年の帝展に、珍しくも大作「高原」が出て、特選と美術院賞が与えられた……云々」

アイヌの作以前に、「老坑夫」を東京勸業博に出品、二等賞を。アイヌと同年秋第四回文展に「九十九里」を出品、三等賞。翌四十四年に「ホワンチュウ」と「金仏」を出品、「金仏」は二等賞を受けた。

二等賞とは最高賞で、一等賞はなく、すなわち審査員の作というわけであった。

大正の末から、昭和七年の没年まで、大作以外の珠玉の作品の大部分は、元町画廊に集められたもので十分はかり知れる。一連の野菜静物は美しいマチエール、見事な構成、落着いた色調、白の上に透明にグレイズされた、赤や緑の新鮮さ、四十年も年月を経たとは思われぬ、当節油絵具をいじめ抜いた早描きの絵など比較にならぬ、と思った。大いに啓発された。

どっしりと坐った「裸婦」、若い日胸踊らせて思い起こす作。昭和四年新進の伊原宇三郎が欧州か

ら婦朝早々の諸作、ピカソだなと足の大きい裸婦。猪熊源一郎の裸婦立像も、オットセイを思わす大足であった。前田寛治の緑の裸婦、同じようなポーズをモデルに頼んで、懸命に没頭したものでした。そしていま、目の前にみるこの「裸婦」に、何か総てを結集した完璧を覚えしめました。

「白い馬(首)」、「野の花」、「桃」、「黒牛」中には大作の部分下絵もあるが、タブローとしてもチャンスと通じるし、深い構成と緻密な内容とが(絵画的)見厭を知らぬ所以である。兵庫県が生んだ画家として、新井、金山先生の諸作のように、せめてしめて県立美術館へ……無理な話であろなか。

りんどう咲く秋の たのしみ鍋

河崎 美代子

〈関西新制作研究会々員〉



むかし、晩秋になると近くの草むらに十センチほどのりんどうが咲いた。うっかりすると踏みつけそうなのをよく二、三本摘んで帰ってはコップに挿していた。ことしの秋のはじめその野生のりんどうの小さな鉢植えを近くの花屋で

見つけた。ハツとする碧色の深さは久しく遠い記憶をよびおこす。土におろせばつくだろうか。ひと頃つるバラに夢中になったこともあるけど、ヨーロッパの家並や風景にあまりびつたり溶けこんだ咲きぶりに比べると、二番煎じのような気がしてきて、今は草花にひかれる。西洋化されても日本の風土にはやはり根づよい、変わらな

い何かがあるはずだ。

庭はつくらず専らこぼれ種が自由に咲いている。萩とすすきの波の間に黄色いコスモス、白いコスモス。肥土も入れてやらないところにも結構咲いているのはいいらしい。野性の産物なのに「そこはか」とない風情が……とひそかに思っているところへ、訪ねてきた人に「いいですね」などと言われるとカンタンによるこんでしまうあじさいは六月の花だけれど、場所と気温の関係で物さびたむらさき色の濃淡に変じたまま晩秋のけしきに溶け合っているのは妙に心をしずめる静けさがある。花のはなしは尽きないがだべもの、のことを書く約束だった。

夏の反動でたべものをたのしむのもやはりこの季節。「料理の第一歩は空腹である」と大言壮語して笑われたことがあるが、技術、経験、材料は言わずもがなのので、自分の作るもののおいしい

か、まずいかなを知るには何より新鮮な感覚がいる。ある料理の熟練者は空腹だともでもおいしく細かな神経がつかえないから腹四分とか六分がよいとも言いが、まあそれは個人差なりコンディション次第だ。人一倍食いしんぼうなのでたべものに関する記事、紹介のたぐいを読む時はかなり真剣な目つきになっていると思う。私は元来た、べる、楽しみとつくる、喜びとは別のものだと思っている。もちろん平素は両方兼ねなければへたばってしまいが。例えば魚などは正直言って人に料理してもらう方が確かにおいしく味わる。味覚というものは大そう複雑なもので視覚、嗅覚、季節感も含めての環境などからかもし出す雰囲気が大いに作用するから馬鹿にならない。

秋になって決まって恋しくなるのは鍋ものである。甲陽園「はり半」のよせ鍋は上品な味でさすがだが、私は自家版を時々試みる。一名「たのしみ鍋」ともいうが、うちでする場合、まず買物かごを引下げて材料を買い出しにゆくときからそのたのしみは始まる。何と何という決まった筆法もなく好みに応じて好きな魚や野菜などの半調理のものを大皿とか盆(私は直径四十五センチの有馬ざるを使っている)に色の相互作用をた

のしみつつ盛り、食卓でうす味の
だいでたく。たとえ「はり四分の
一」の評価でも材料の伸縮自在、
千変万化がたのしめる。一品料理
ではなるべく野趣のあるそうざい
料理が秋にふさわしい。

やがて後の山のくぬぎの木の葉
が燃えるように色づく頃である。

スペインの緑

芝 康亘

（タイガー・エンタープライズ
KK取締役社長）



「スペイン」といえば、乾燥不
毛の高原のひろがり、赤茶けた国
土にしよぼしよぼオリブだとか
傘松のこびりついた炎熱の国——
と思う人が案外多いのかもしれない。
事実、大部分その通りなのだ
が、しかし、あるべき所には緑が
あって、そのまた緑が何とも溜息
をつくほど素適なのだ。例えばマ
ドリッド市中にあるレティロ公園
の緑を湿潤の国日本の都市計画担
当者とか実施者だとかが見たとし
たら、さし当って溜息千年は吐か
ねばならず、やがては己が無策に
赤面を禁じ得ぬのが当然だろう。

日曜の午前中、三々伍々公園の
散策をたのしみにやってくるマド
リードの人たち。正装して、腕を

組みあった老夫婦。手をつなぎあ
った若い男女。緑陰のテラスで葡
萄酒付きの弁当をひろげる家族連
れ。高貴な貌の巨大を端座させ、
自分も大木の幹に身をもたせて読
書にふける青年。賑々しく、ちょ
っとあけすけな感じの饒舌り方だ
けれど、驚くほど顔立ちの美しい
少女たちの一群。

スペイン広場の一隅にある小さ
なテラスも私は好きである。何
という樹だか知らないけれど、広
葉樹に覆われた下陰は、夏の昼間
の暑熱を忘れさせて、涼しさと呼
ぶ。日暮れ刻、勤め帰りにちよっ
と間食をつまむスペイン人たちの
間に椅子をとって、軽くビールを
やる。胎貝のオイル漬けとかオリ
ブをつまむ。あるいは、正装し
て遅い食事に出掛ける前、散歩の
中休みのスペインの人たちに混っ
て、アペリティーフにシェリーを
やる。特有のしゃべり方と身振り
の人たちをとりとめもなく目に耳
にしながら、涼と、旅先のゆとり
と、満ち足りた気持の中に身をゆ
だねる。ああ、スペインに居るな
あ、なんぞと思う。空を仰ぐと、
葉隠れに星が近い。

セラノ通りを私はよく散歩し
た。また、夜遊びのあとマドリ
ッドの女友達を自宅に送ってゆく途
中、私たちはよくこの通りで車を
捨てた。深い木立の並木なのであ
る。腕を組んで歩く。思わぬ所

に、一晩中照明をつけた高級アテ
ィックとか家具屋のウインドーが
あって、そういう所では立ち止ま
ったりする。あとはひっそりした
住宅街。七月、深い木立は強い芳
香を放ち、白い花を積もるほど降
らせる。初めての時、木の種類なん
ぞには無智蒙昧な私の問いに、彼
女は「アカシア！」と答えた。な
るほど、これがアカシアか——。
人通りも絶えた住宅街の通りに、
アカシアの花は音もなく雪のよう
に降るのである。

アランフェスの宮殿をとりまく
森。そこにさえざる幾百千の小
鳥。ラ・グラナハの夏の離宮の噴
泉と深々とした緑。秋、クレドス
山中の名もない小さな村を包む黄
葉。これは「くり」だと彼女は言
った。またこの一帯を「アંダル
シア・イン・カステイリヤ」と
も教えた。肥沃なのだ。リオ・フ
リオ——数千頭もの鹿の森。そこ
の緑陰で、私たちはオドオドした
鹿の眼に囲まれて、奈良の、人の
ポケットまで狙う人ずれた鹿じ
やない、純粹な野性の多分に残っ
ている鹿たちのつぶらな眼に囲ま
れて、弁当をひろげた。満腹して
青草にひっくり返ると、スペイン
の緑は深く、空は青く高い。
私は乾燥の国スペインに行くた
びに、その濃く潤った素適な緑に
溜息つかずにはいられない。

「椰子会」が誕生したのは、昭和三十一年十一月のある寒い日だった。塩屋ジェームス山の浜崎素粒子宅で、胸に金ボタンを並べた若者五人がコタツに脚をつっこみ、ひとわりたり俳壇の将来を占なつたのち、じぶんたちグループの結束をはかることで衆議一決した。当時、神戸では若い俳句作者たちの交流がさかんだった。阿波野青歌氏をかこむ「神戸新人会」

「椰子会」という名も、その頃の青くさい意気込みのあらわれである。烈日の南の島の、あの常緑の椰子のすこやかな高さを、じぶんたちの俳句活動の将来に思い合わせていた。

五人のうち一人が欠けて、いわば第一次椰子会同人として残り、いまま作句に賭けているのは、中杉隆世・中野達也・浜崎素粒子・

とある集いその足あ

☆

椰子会

友岡子郷



小松益喜画伯の表紙絵による季刊誌「椰子」

や関西各大学の金ボタン組を集めた「関西学生俳句連盟」などの句会が、定例的にひらかれていた。ジェームス山で結束した五人は、これらの句会の常連であつて、「ボトトギス」などの古い結社に属しながら、新しい伝統を築こうという気ままな野心をかきたてていた。句会で、青歌氏に青くさい芸術論をふっかけては氏をあきれさせていた。

友岡子郷である。

この四人が合同句集「実（じつ）」を出したのは、昭和三十五年の暮れだった。句集の草稿を国際会館内の喫茶室に持ちこみ、互いに○×をつけ合ったものだが、各人の採点が辛すぎて、決定稿ができるまでに一年近くもかかった。合同句集が出る二年前の夏、この四人は、高浜虚子を中心とする「山中湖けい古会」にも参加した。

今もって虚子の孫弟子のような気持ちがどこかにあるのは、その時の虚子翁の悠々たるそぶりの印象が強くのこっているからだと思ふ。

現在、「椰子会」の同人は、その後に加わった山本良明・守下周延・源啓一郎の三人を含めて七名である。七人の侍と称して、それ以上同人は増やさないことにしている。ただし、自閉症状を起こさないために、いつの会も希望があれば参加自由である。例会は、各同人の家を回り持ち、自家用車族が四人いるので、ドライブ行と名づけて少々遠距離の吟行も容易にできるのは一つのじまんである。昭和四十三年夏、ようやく機関誌「椰子」を発行することにふみきつた。長年の懸案であつたが、実現させるきっかけがなかなかつかめなかった。季刊である。各同人ともそれぞれ他の俳句雑誌にも進出していて、その点は俳壇では例の少ないことである。

会誕生後すでに十数年を経たがわれわれはまだ三十代半ばである。まだまだ少壮気鋭の年齢と言うべきだと思ふ。

（椰子会刊行のもの——「実」の他に、「遠方・友岡子郷句集」「米と雀・山本良明句集」、以下続刊の予定）

■連絡先／瀬区畑原通2丁目2の6
友岡子郷方 TEL (861) 4996

海の秋、山の秋—お山の上の彫刻展—

秋の須磨浦山上へ



須磨浦山上野外彫刻展

期間：11月21日(日)まで好評開催中

場所：須磨浦山上遊苑一帯

協賛：兵庫県彫刻家連盟

出品者 磯尾寛治 大上喜弘 菊川晋久
北真須子 新谷秀雄 新谷琇紀
新谷映子 谷井信市 樽本淳二
丹下寿一 広嶋照道 三方清三郎
吉田英智 和田真澄 和田正義
(アイウエオ順・敬称略)

主催：山陽電車・神戸新聞社・デイリースポーツ社
サンテレビジョン

●ローブウェイ営業時間 9時15分～17時45分(11月)

〈彫刻とモデルの撮影会〉

期日：11月7日(日) 雨天→14日(日)

時間：10時～15時 場所＝須磨浦山上遊苑一帯

題材：野外彫刻展風景モデルなど

サイズ：カラーの部〈カラースライド(35mmまたは6×6版以上)〉
〈カラープリント(Eサイズ以上)〉

白黒の部〈四つ切りに限定 組写真連作認めず〉

使用材料：富士フィルム、富士印画紙使用のこと

●秋の須磨浦山上写真コンクール募集中(締切11月30日(火)必着)

発表：12月中旬神戸新聞紙上および入賞者に直接通知いたします。

送付先：神戸市長田局区内 山陽電車 宣伝係
神戸市葺合局区内 神戸新聞社 事業部

賞：推選他多数 協賛：富士フィルム株式会社

山陽電車(須磨浦公園駅下車)
阪急、阪神特急梅田から直通